

D部門論文委員会意見交換会

2021年8月27日（金）

12時00分～12時45分

長岡部門大会会場＋Zoom

1

議事次第

1. 論文委員会の体制紹介・編修長・英文編修長あいさつ

星和文誌編修長・横山英文誌編修長

2. 最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

3. 査読マニュアルについて

星和文誌編修長

4. 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について

および戦略委員会の活動報告

星和文誌編修長・横山英文誌編修長

5. 電子査読システムの運用状況について

佐藤和文誌編修長補佐

6. 論文委員意見に対する回答

星和文誌編修長・横山英文誌編修長

古関 D4/5主査

7. 意見交換 (12:45終了)

産業応用部門 和文論文誌 編修長
星 伸一 （東京理科大学）

英文論文誌 編修長
横山 智紀 （東京電機大学）

最近の和文論文誌委員会・ 英文論文誌委員会の活動について

産業応用部門 和文論文誌 編修長

星 伸一（東京理科大学）

英文論文誌 編修長

横山 智紀（東京電機大学）

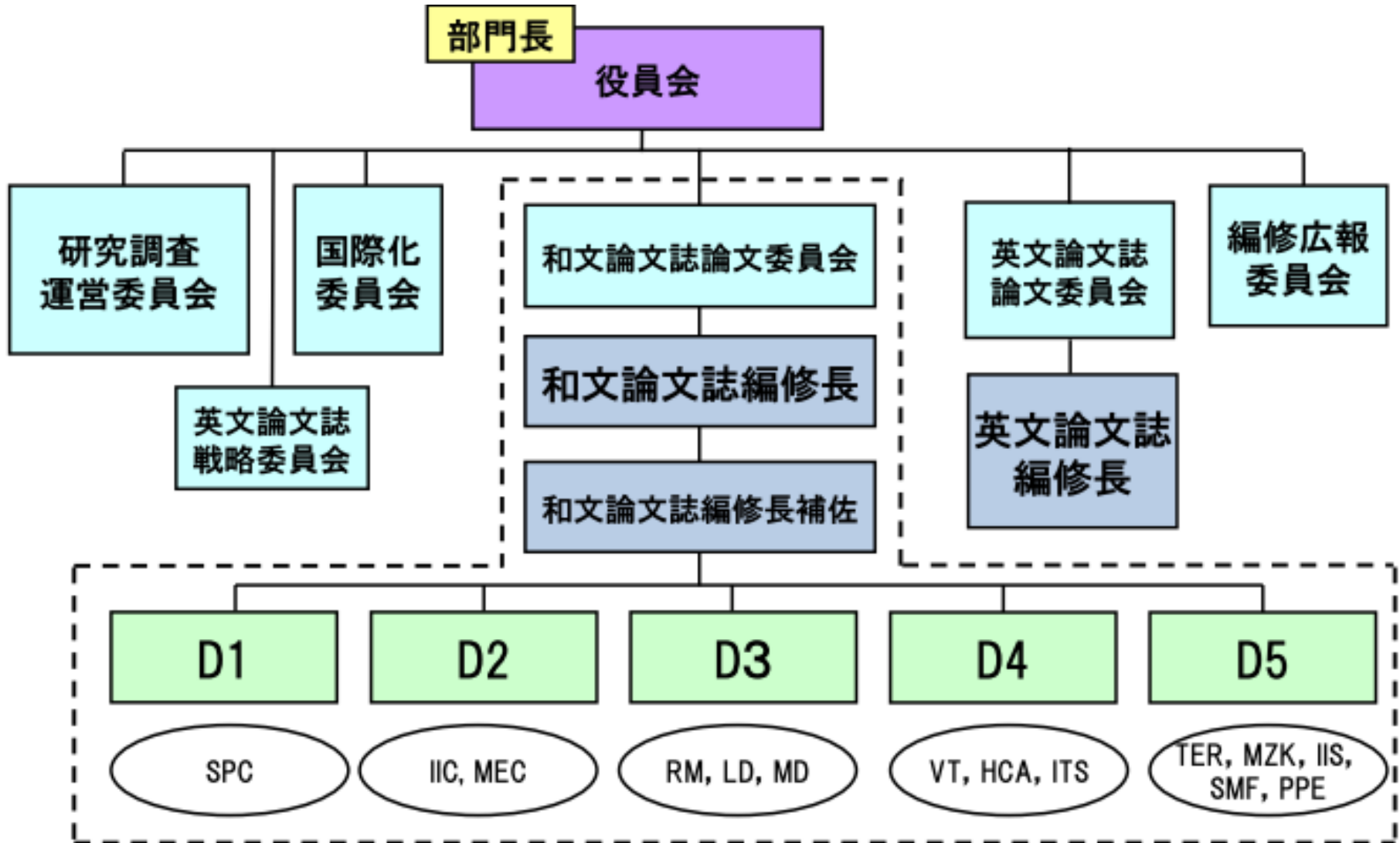
★ねらい

- D部門としてのグローバル化
- 国際的な情報発信の促進
- 英文論文誌のクオリティ向上(SCI登録)

「英文論文誌戦略委員会」で各種対策を実施

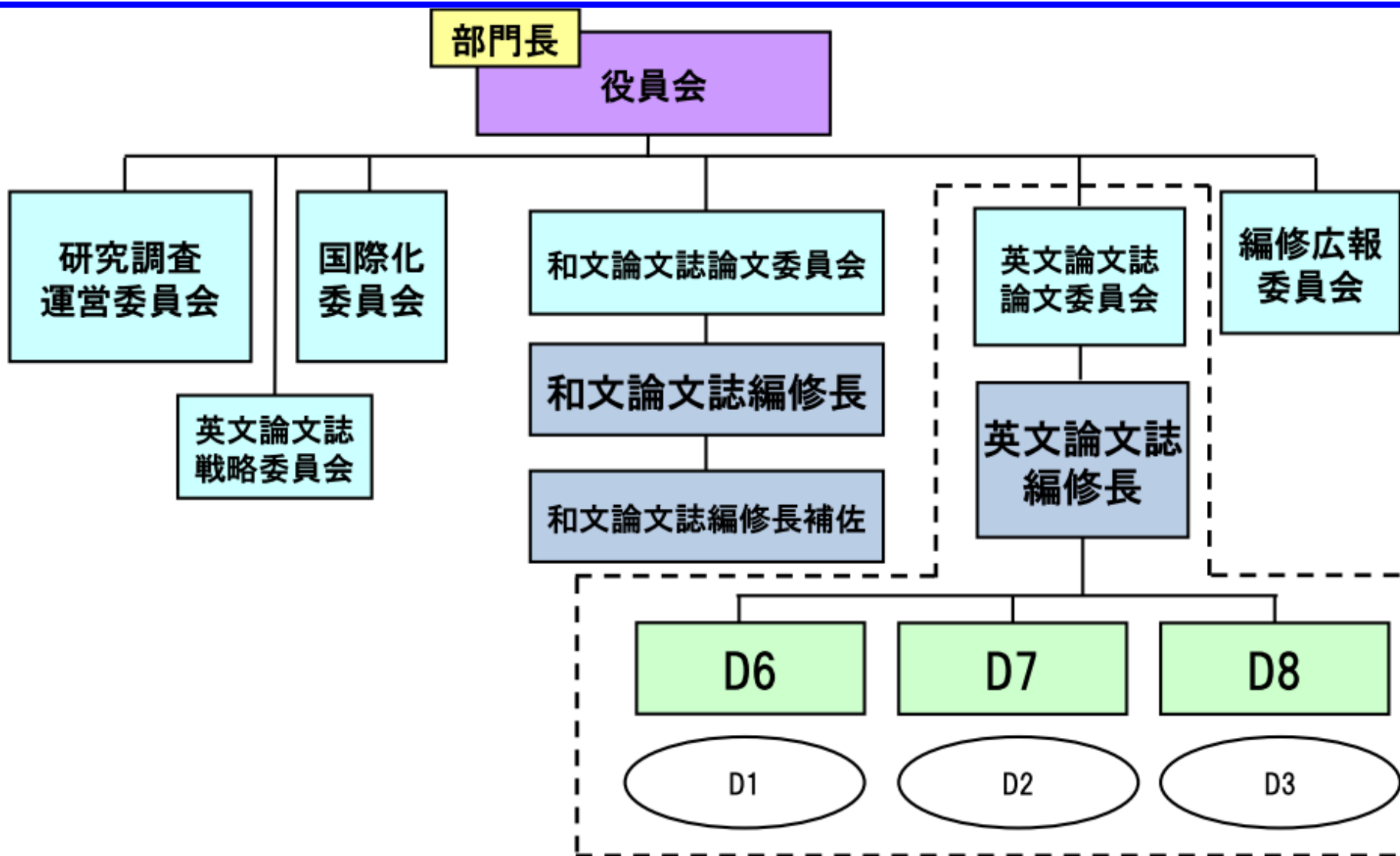
5

D部門における論文委員会（和文論文誌）

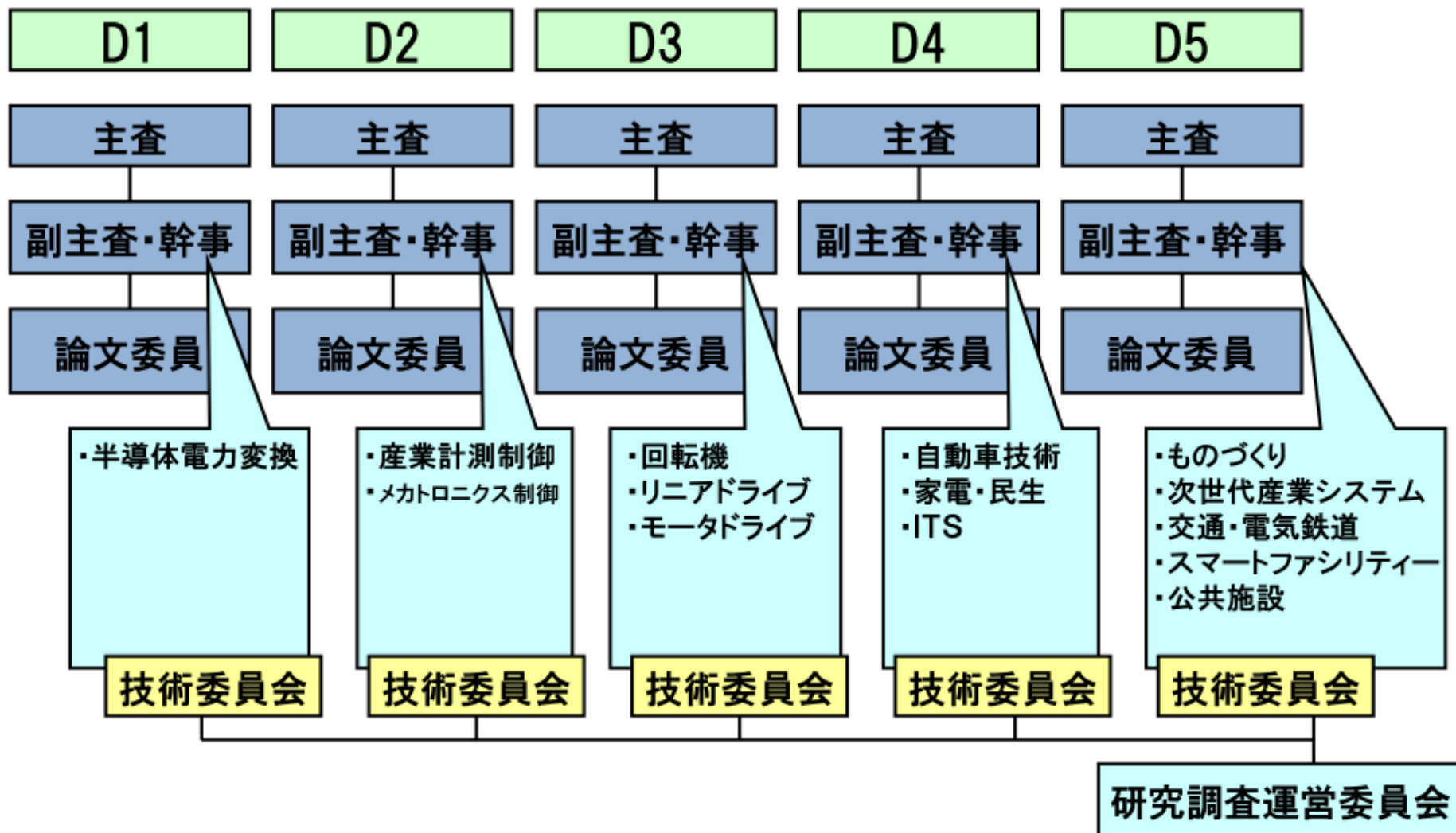


6

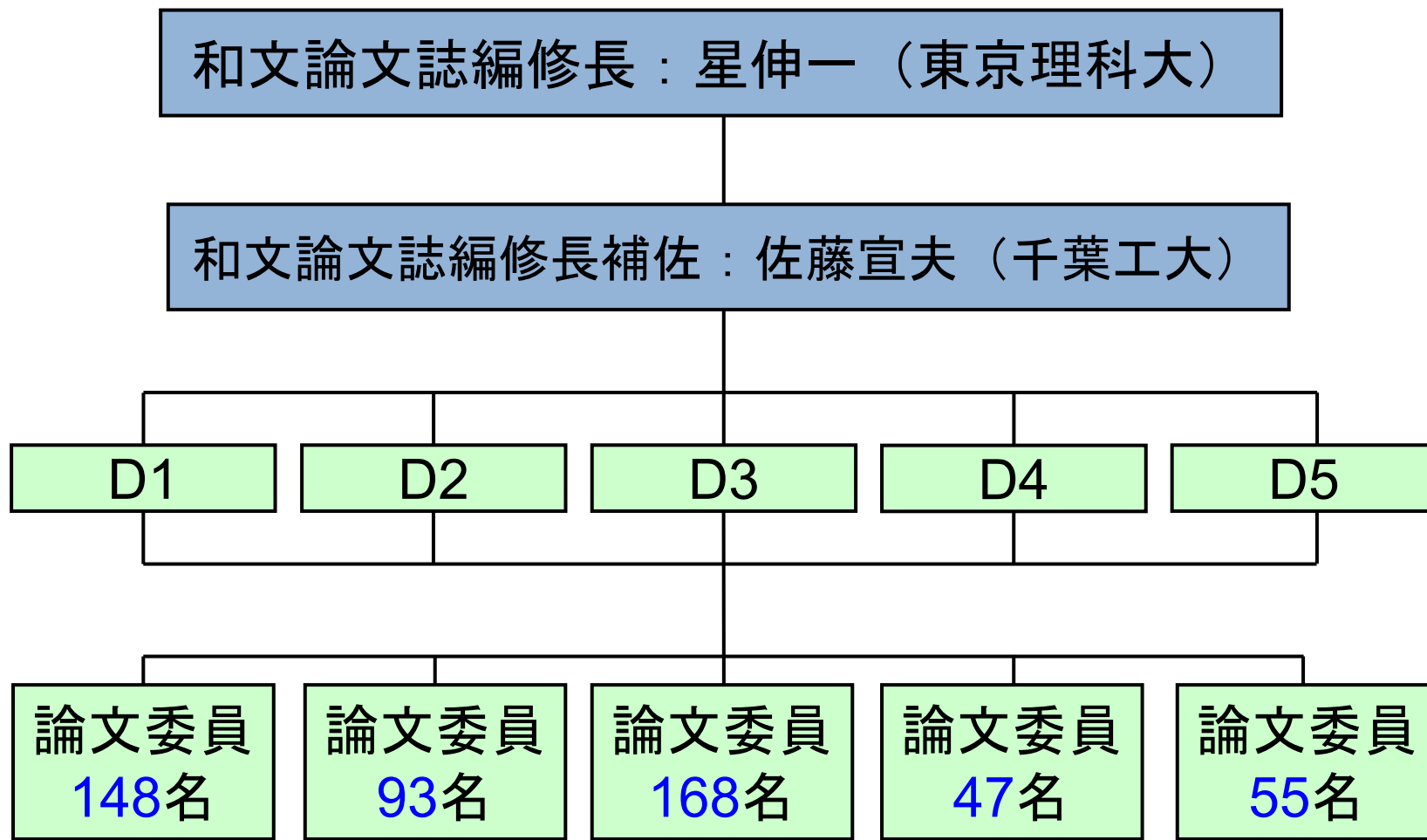
D部門における論文委員会（英文論文誌）



和文論文誌論文委員会の組織



和文論文誌論文委員会の構成



2021年度和文論文誌 論文委員会幹事等

D1	役職	氏名	所属
	主査	磯部 高範	筑波大学
	副主査	藤井 幹介	富士電機(株)
	幹事	三島 智和	神戸大学
	〃	児山 裕史	東芝インフラ システムズ(株)
	〃	長谷川 一徳	九州工業大学

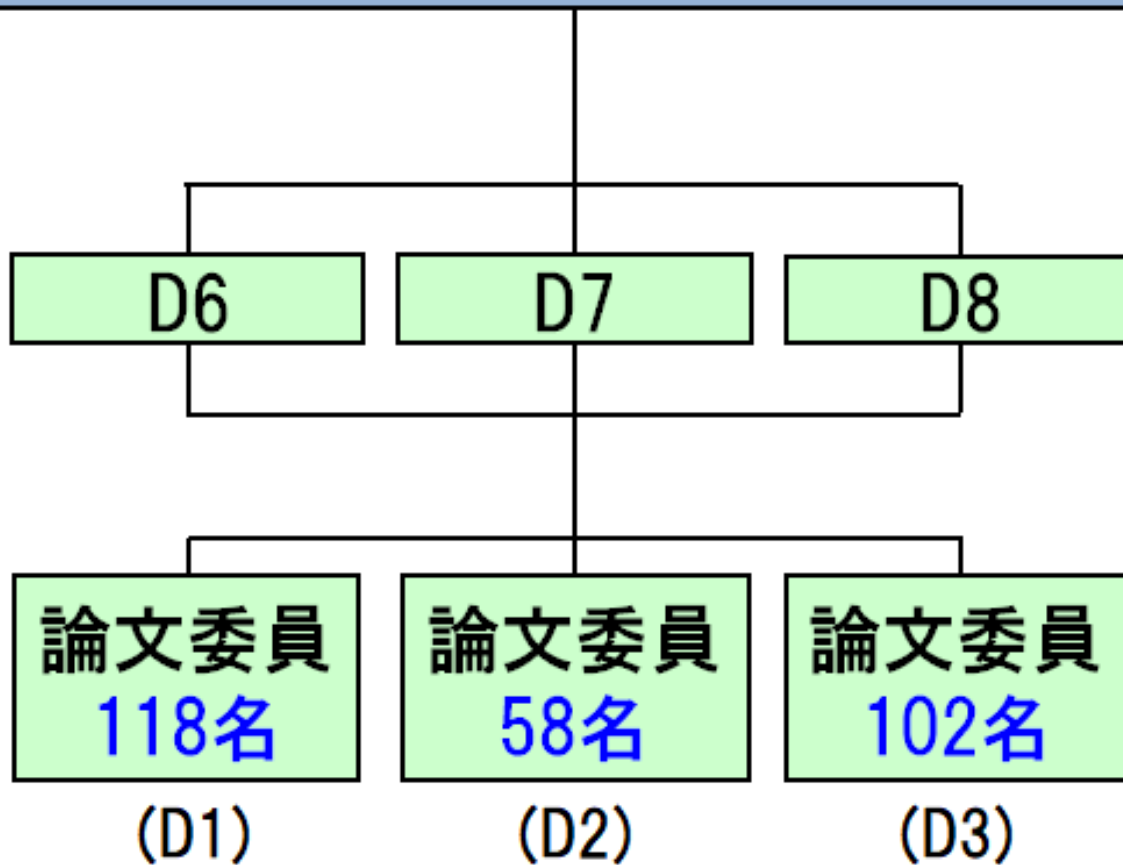
D3	役職	氏名	所属
	主査	坂本 泰明	(公財)鉄道総合技術研究所
	副主査	赤津 観	芝浦工業大学
	幹事	鈴木 憲吏	東京都市大学
	〃	長谷川 勝	中部大学
	〃	中村 健二	東北大学
	〃	井上 征則	大阪府立大学
	〃	木村 守	日立金属(株)
〃	上野 哲	立命館大学	

D2	役職	氏名	所属
	主査	小田 尚樹	千歳科学技術大学
	副主査	関 健太	名古屋工業大学
	幹事	元井 直樹	神戸大学
	〃	境野 翔	筑波大学
		熱海 武憲	千葉工業大学

D4	役職	氏名	所属
	主査	古関 隆章	東京大学
	副主査	山田 親稔	沖縄工業 高等専門学校
	幹事	居村 岳広	東京理科大学
	〃	井上 馨	同志社大学
	〃	岩岡 浩一郎	パナソニックシステム ソリューションズジャパン(株)

D5	役職	氏名	所属
	主査	古関 隆章	東京大学
	副主査	山田 親稔	沖縄工業 高等専門学校
	幹事	小坂 大吾	職業能力開発 総合大
	〃	久保 亮吾	慶應義塾大学
	〃	横川 勝也	東芝インフラ システムズ(株)
	〃	渡邊 翔一郎	東京電機大学

英文論文誌編修長：横山 智紀（東京電機大学）



英文論文誌編修長 横山智紀（東京電機大学）							
D6	Power Electronics and Its Applications			D7	Motion Control, Robotics, Sensing, and their Applications		
	役 職	氏 名	所 属		役 職	氏 名	所 属
	主 査	和田 圭二	東京都立大学		主 査	石川 潤	東京電機大学
	副主査	芳賀 仁	長岡技術科学大学		副主査	藤本 康孝	横浜国立大学
	幹 事	小原 秀嶺	横浜国立大学		幹 事	下野 誠通	横浜国立大学
	〃	名取 賢二	千葉大学		〃	藤本 博志	東京大学
	〃	浜崎 真一	長崎大学		〃	伊藤和晃	岐阜大学
	〃	梅谷和弘	東北大学		〃	道木加絵	愛知工業大学
D8	Electric Machine, Motor Drive and their Applications						
	役 職	氏 名	所 属				
	主 査	小坂 卓	名古屋工業大学				
	副主査	近藤 圭一郎	早稲田大学				
	幹 事	朝間 淳一	静岡大学				
	〃	鳥羽 章夫	富士電機（株）				
	〃	山本 修	職業能力開発総合大学校				

D部門 論文投稿・掲載件数の推移

令和2年

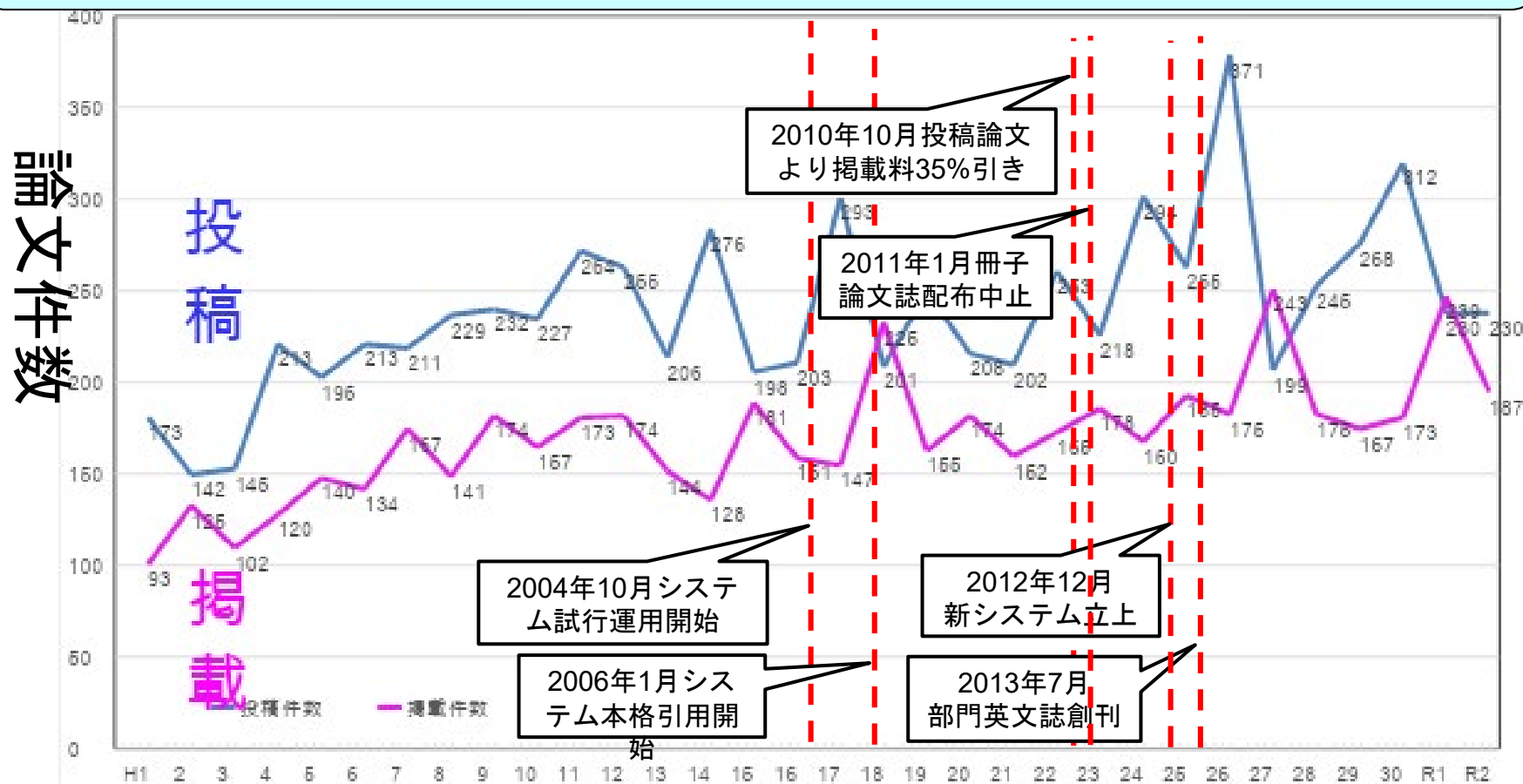
投稿 **230** (うち英文論文誌D 85)

掲載 **187** (うち英文論文誌D 81)

令和元年

投稿 230 (うち英文論文誌D 89)

掲載 239 (うち英文論文誌D 119)



年

特集号の企画数

年	企画数	投稿数
2021年	3	145 【08/16時点】
2020年	2	230
2019年	7	239
平成30年	4	312
平成29年	4	268
平成28年	3	245
平成27年	3	199
平成26年	9	371
平成25年	6	255
平成24年	5	294

15 D部門英文論文誌 (JIA)

- グローバル化⇒D部門の高度な技術の世界へ。情報発信は英語で！（共通英文論文誌：scopeが広すぎる）
- IEEE (IEEE explore) との差別化
 - ①電気学会の査読基準（有用性、オリジナリティ、新規性）、
 - ②きめ細かい査読プロセス
 - ③有用性のある論文を掲載する

現状：Open access。海外著者は投稿料実質無料
一流論文誌として認められる（海外から読まれる論文誌）
となるためには：

Web of Scienceの **SCIE登録**（インパクトファクター）を**目指す必要がある。**

- **SCIE** (Science Citation Index Expand)
 - Clarivate Analytics社（2016年Thomson Reuter社から分離）の学術雑誌データベース
- **サイテーション・インデックス**（引用索引）による論文誌評価

- JIA論文引用の促進
- Early access の実現(2020/10~)
- 著名研究者の招待論文の促進
- 国際共著論文の促進
- 日本開催の国際会議論文をJIAへ誘導
- 査読促進賞（定常運用）(査読期間短縮)
- JIA Cool Japan論文シリーズの開始
- JIA Finderの運用開始
- クラリベイト社による広報メール発信
- SCI登録の審査（ELSEVIERのScopusとEIに登録、Web of ScienceのESCIに登録済み。(登録の俎上に常に乗っている状態)）

16 JIA Finderの運用開始

<https://www.iee.jp/en-ias/spa/>

JIAの論文の検索エンジン

著者、キーワード、volume, yearでの検索が可能ですので、活用ください

JIAのHPからリンクがあります

IEE of Japan Industry Applications

HOME

MY PAGE SITE MAP JAPANESE

Search for ...

ALL

JIA Most Viewed Articles

- 1 NISSAN e-POWER: 100% Electric Drive and Its Powertrain Control**
Kantaro Yoshimoto, Tomoyuki Hanyu
Issue date: July 01, 2021
- 2 Outstanding Technical Features of Traction System in N700S Shinkansen New Generation Standardized High Speed Train**
Kenji Sato, Hirokazu Kato, Takafumi Fukushima
Issue date: July 01, 2021
- 3 Quasi Multirate Feedforward Current Control toward Nyquist Frequency of PWM for SPMSM**
Shona Noguchi, Masahiro Mae, Hiroshi Fujimoto
Issue date: July 01, 2021

Recommended Articles

- Silent Sensorless Servo**
Position Sensorless Adaptive Positioning Servo System with Simplified Differential Calculation and High-Frequency Voltage Injection Strategy Considering Acoustic Noise Suppression
Electric Machine, Motor Drive
position sensorless control, positioning servo system, adaptive control
Naoki Kawamura, Tadanao Zanma, Kenta Koike, Kang-Zhi Liu, Masaru Hasegawa
vol.10, no.1, pp.1-10
Issue date: 2021-01-01
Abstract Full paper
- Computational Aspect Analysis of Real-Time Systems: Application to HDD Servo Control**
Motion Control, Robotics, Sensing
co-simulation, computational aspect, real-time control
Kenta Morishima, Shigeru Oho
vol.8, no.1, pp.124-130
Issue date: 2019-01-01
Abstract Full paper
- PWM Boost Converter Integrating Differential Power Processing Converter to Enhance Energy Yield of Photovoltaic Panels Under Characteristic Mismatch Conditions**
Power Electronics
differential power processing converter, integrated converter, uneven irradiance, photovoltaic panel
Masatoshi Uno, Yusuke Sasaki
vol.10, no.1, pp.91-99
Issue date: 2021-03-01
Abstract Full paper
- Multilevel Fixed Pulse Pattern Control for Medium Medium-Voltage High High-Frequency Inverter**
Ryuichi Ogawa, Masashi Takiguchi, Yugo Tadano
To satisfy the demand for more compact medium-voltage motor drive systems, it is desirable to increase the frequencies of cascaded H-bridge inverter... Show More
ADVANCE PUBLICATION, 2021/08/13
- Motion Control, Mechatronics Design, and Moore's Law**
Maarten Steinbuch, Tom Oomen, Hans Vermeulen
Technology in a broad sense is driven by developments in semiconductor technology, particularly with respect to the computational power of devices and system... Show More
ADVANCE PUBLICATION, 2021/08/06
- Design and Analysis of Five-Degree-of-Freedom Oscillatory Actuator**
Akira Heya, Katsuhiko Hirata
Oscillatory actuators (OAs) are used in various fields, such as industrial equipment and home appliances. For example, they are applied in active vibration... Show More
ADVANCE PUBLICATION, 2021/07/30
- Investigation of Servomotor Structure for Sensorless Control Based on High-Frequency Injection Method**
Masanobu Kakihara, Mamoru Takaki, Motomichi Ohto, Shinya Morimoto
This paper presents the servomotor structure suitable for sensorless drives based on high-frequency injection method. The position estimation accuracy is... Show More
ADVANCE PUBLICATION, 2021/07/30

和文論文誌D（論文）

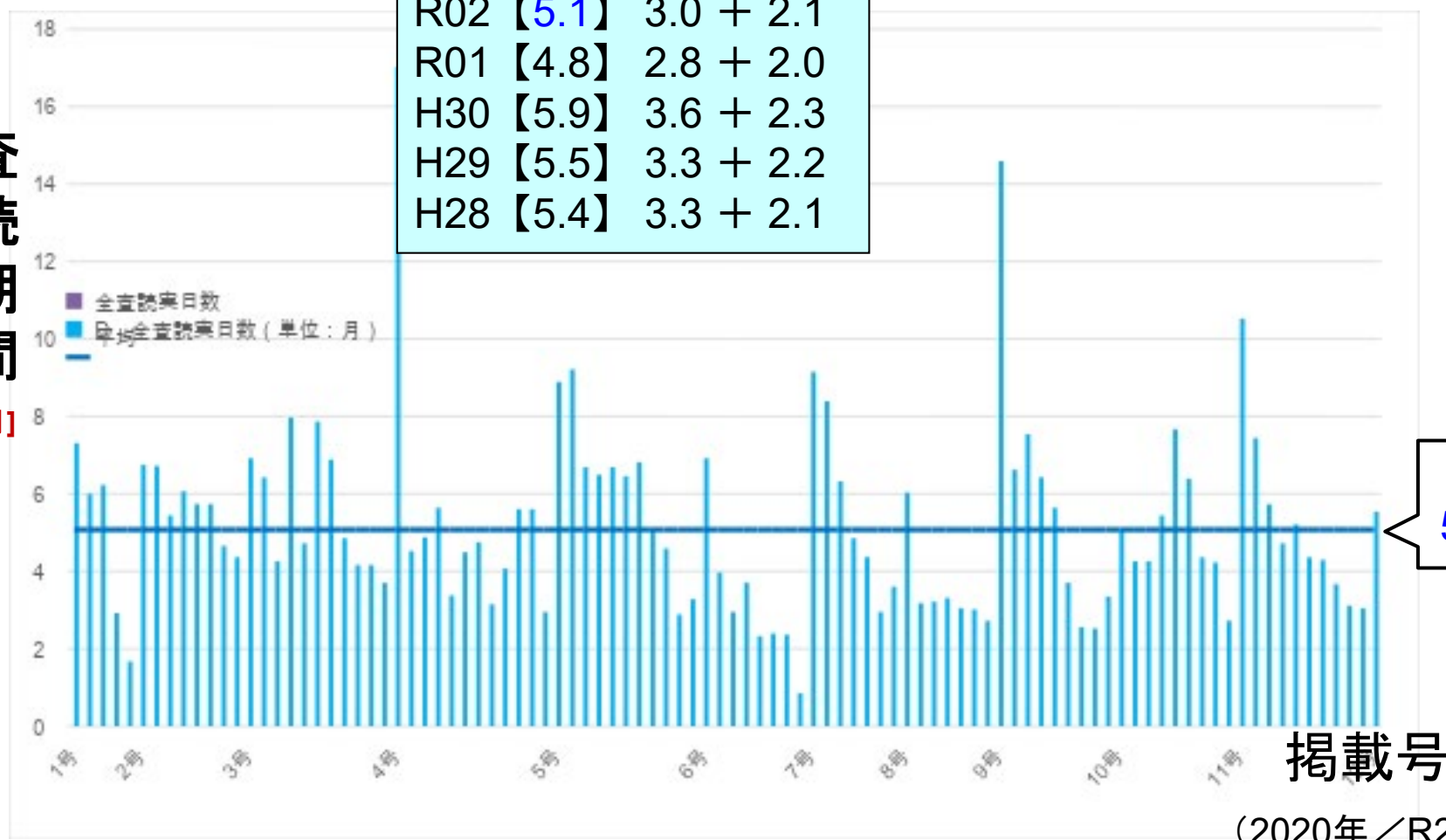
論文掲載判定までの所要月数

査読期間

[月]

査読 + 照会

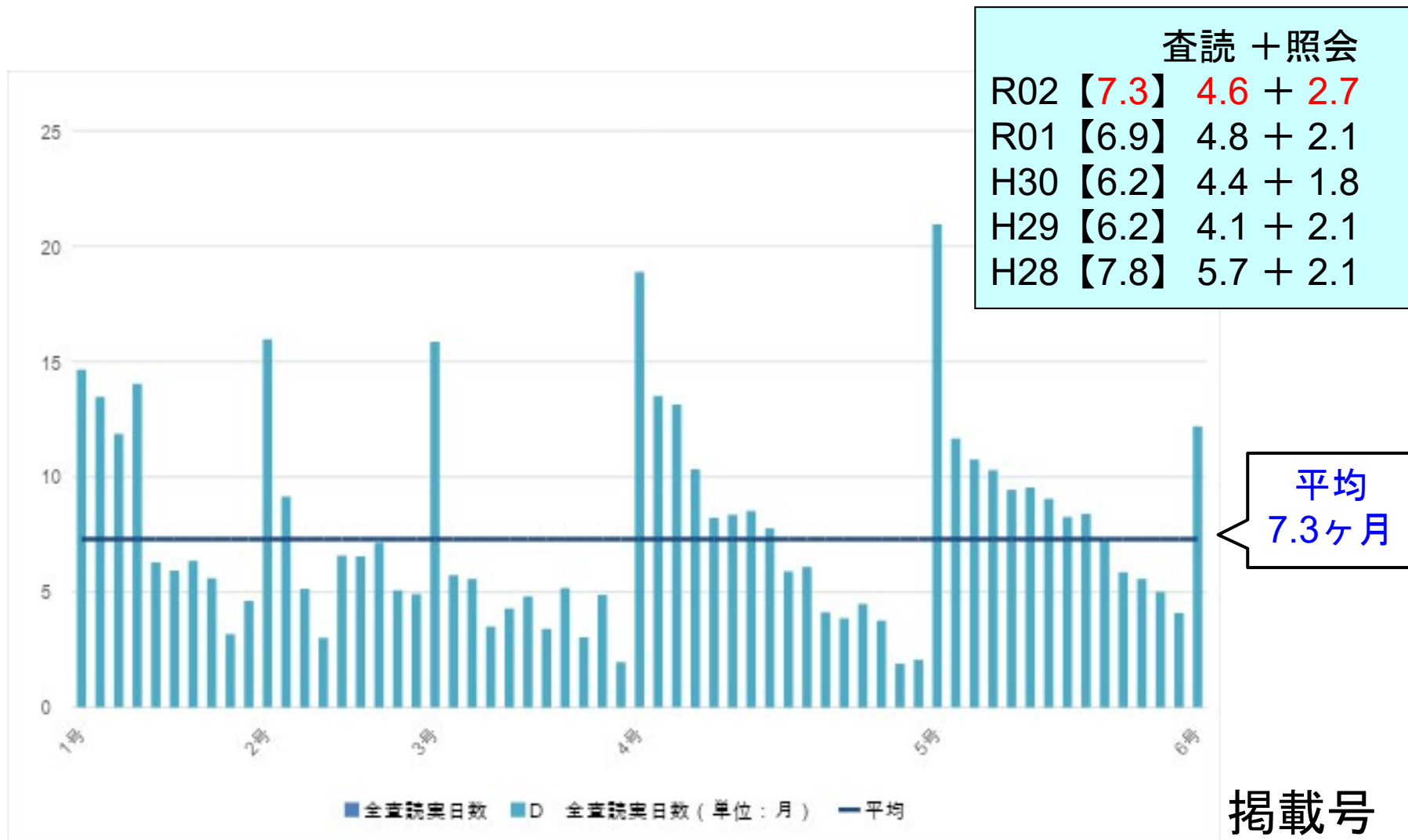
R02	【5.1】	3.0 + 2.1
R01	【4.8】	2.8 + 2.0
H30	【5.9】	3.6 + 2.3
H29	【5.5】	3.3 + 2.2
H28	【5.4】	3.3 + 2.1

平均
5.1ヶ月

英文論文誌D（論文）

論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]



掲載号

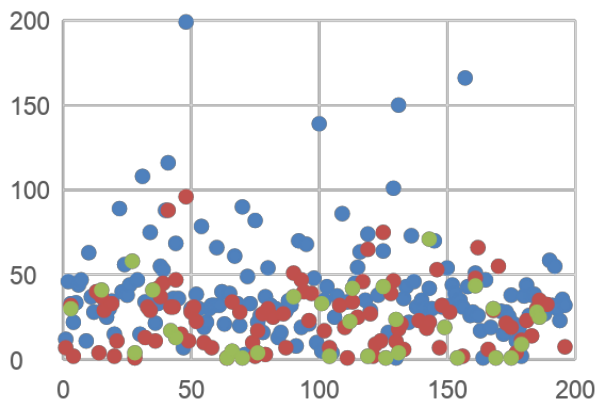
(2020年/R2)

19

査読日数分布

査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布

期間: 2018年10月10日-2019年
10月9日



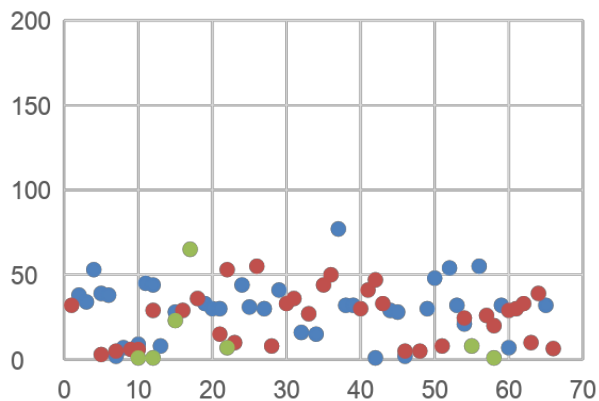
● R1日数 ● R2日数 ● R3日数

査読平均日数	R1	40.58
	R2	26.1
	R3	16.98

試行期間

査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布

期間: 2019年10月10日-2020年
1月10日



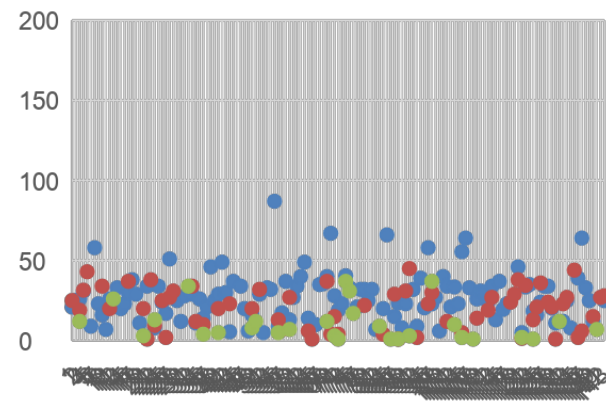
● R1平均日数 ● R2平均日数 ● R3平均日数

査読平均日数	R1	30.21
	R2	24.35
	R3	15.14

2020年本施行

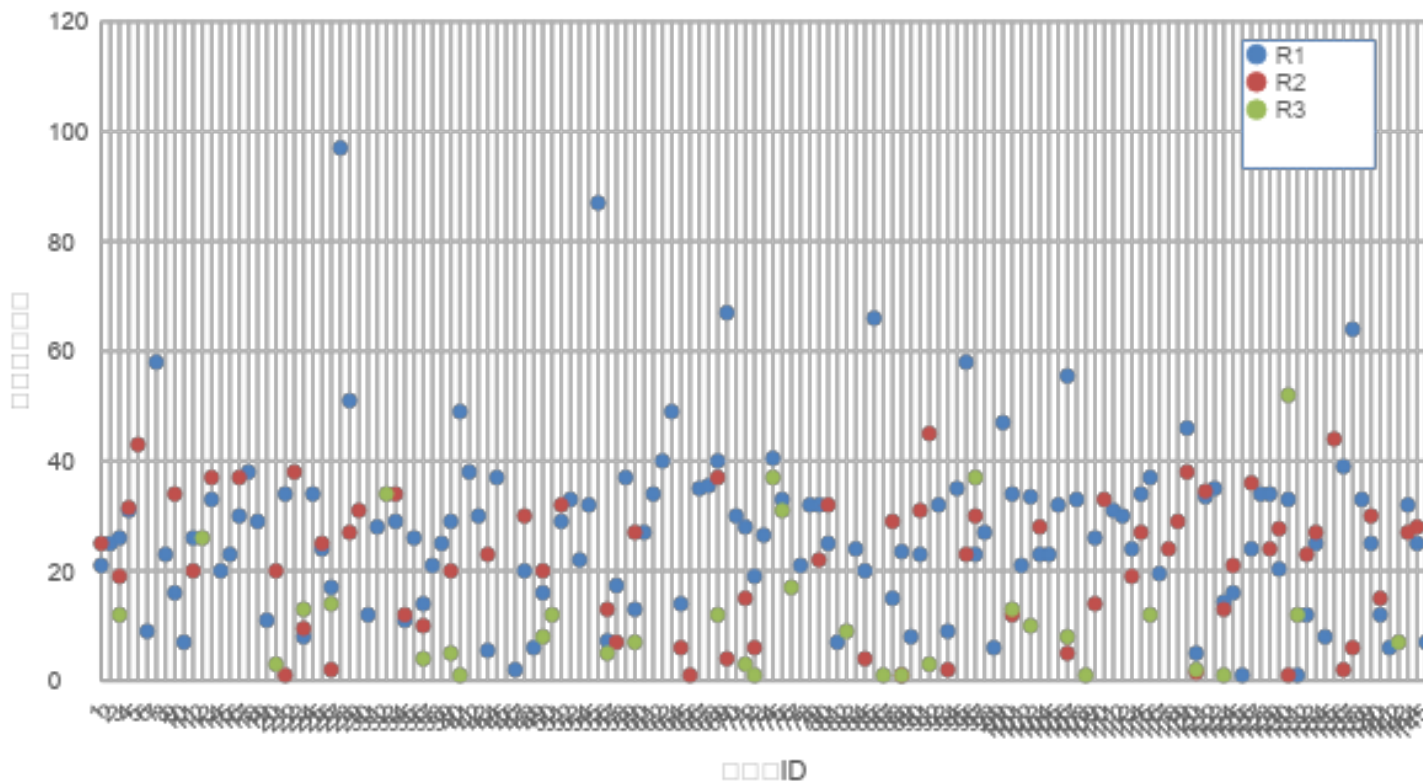
査読者(x軸)一査読日数(y軸)
分布

期間: 2020年1月11日-2020年
12月31日



● R1平均日数 ● R2平均日数 ● R3平均日数

査読平均日数	R1	27.61
	R2	20.42
	R3	10.90

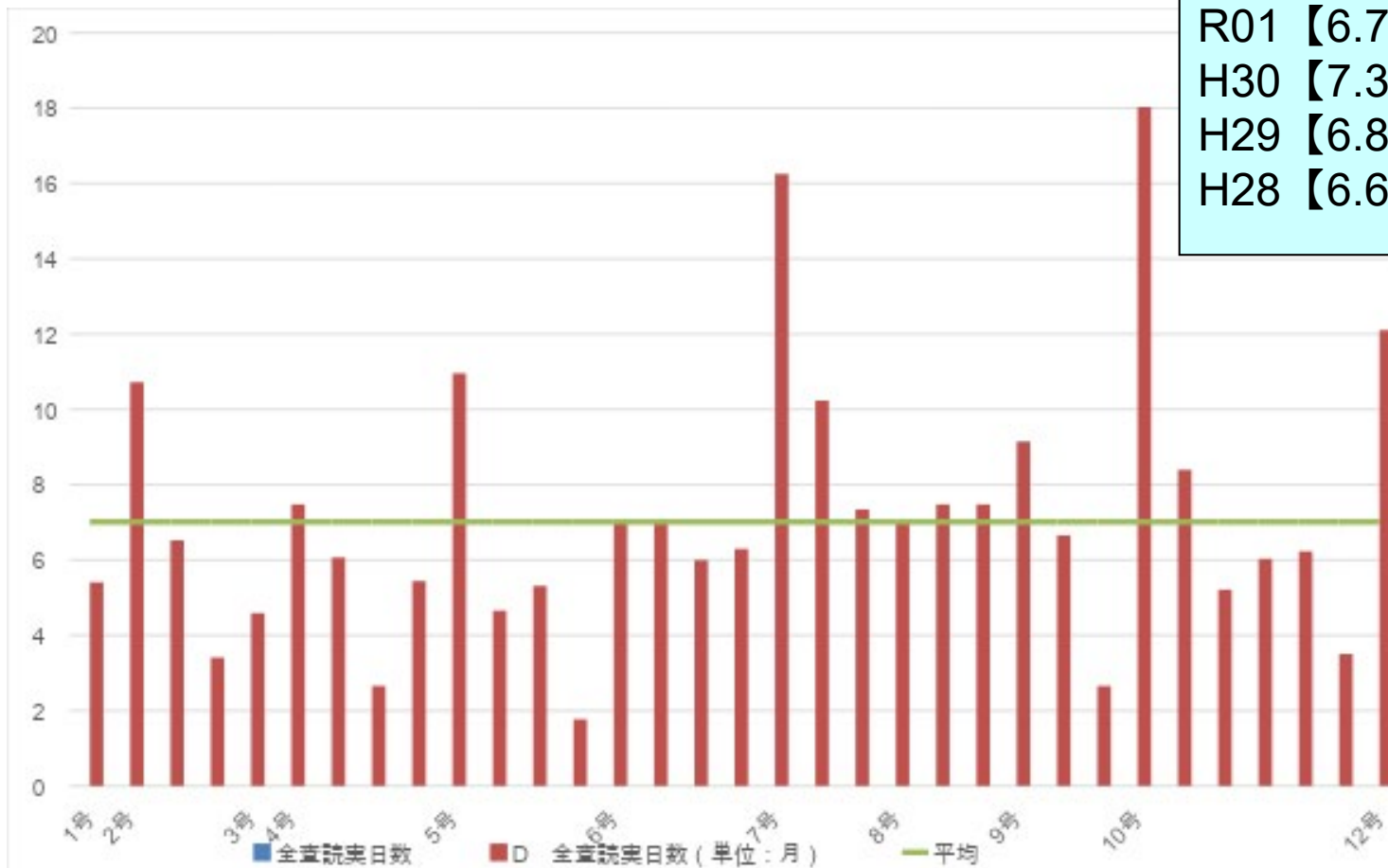


査読平均日数	R1	26.50
	R2	20.97
	R3	12.08

共通英文論文誌（D部門投稿論文）

論文掲載判定までの所要月数

査読期間
[月]



査読 + 照会

R02	【7.0】	5.0 + 2.0
R01	【6.7】	5.2 + 1.5
H30	【7.3】	5.4 + 1.9
H29	【6.8】	5.2 + 1.6
H28	【6.6】	4.9 + 1.7

平均
7.0ヶ月

掲載号

(2020年/R2)

産業応用部門 和文論文誌 編修長
星 伸一 (東京理科大)

- 目的
 - 論文査読の基準を明確にすること。
 - 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。
- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

24 部門誌論文・査読の基本的考え方

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作る。
 - 査読者は論文を早く、正しく処理する。
- 次の論文を出したくなるような査読をする。
 - 何でも掲載すればよいというのではない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力もなくなる。

25 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか1つが認められるか
技術面だけでなく, 考え方, 応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容が発表されていないか

- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
掲載(A判定)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
条件付き掲載(照会后掲載) (B判定)
 - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
照会后判定(C判定)
 - ④ 論文の要件を具備していない：
返送(D判定)
- 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

27 照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け、判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は、照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

28 1 回目 of 査読で A 判定をつける場合 の判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性，創造性，有用性（研究開発レターでは創意性，新規性）のどれが認められるかを（複数でも良い），明確に記載する。

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文**との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の**部分に誤りがある。

- 掲載決定論文の内容の変更は，原則として誤字，脱字，フォントの不一致など，editorialな修正を除いて一切認められない。掲載決定後，最終原稿で意図的に内容を追加したことが明らかになった場合には，掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は，常に改善してゆきます。なお査読マニュアルは産業応用部門論文委員会のページ <http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/> からリンクできます。

参考：部門ホームページ (<http://www.iee.jp/ias/>)

論文委員意見に対する回答

和文誌編修長 星 伸一（東京理科大学）

英文誌編修長 横山 智紀（東京電機大学）

D4/5主査 古関隆章（東京大学）

査読について： 10件
ご意見・ご質問を頂戴しました。

ありがとうございました。

R02: 2件 R01: 5件, H30 : 10件, H29 : 4件,
H28 : 4件, H27 : 10件 H26 : 11件, H25年 : 12件,
H24年 : 1 1 件, H23年 : 3 件

33 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(1) 査読システムに掲載されている査読フローが古いのではないのでしょうか。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。現在公開されているものは、平成16年6月現在のもので、それが公式な最新版であることを確認しております。

34 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス2) 結果報告後に査読者間で結果・コメントを共有していただくことはできないでしょうか。

他の査読者の方のコメント内容を拝見することは査読者にとっても勉強になり、査読のレベルをあげることに繋がると思います。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。これまでもいただいた要望ですが、現在の投稿システムでは残念ながらその機能に対応できません。

35 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス3) 投稿者の査読結果に対する対応内容を共有いただくことはできないでしょうか。

再投稿時の査読を担当した場合、査読者のコメントと投稿者の対応内容を確認することはできますが、初回の査読のみの対応となった場合、投稿者がどのように査読コメントに対して対応したか、論文出版後に確認してはじめて知ることができます。

（論文の採否結果についても出版後に確認できる状況かと思えます。）対応内容を共有いただくことで、投稿者の論点等より明確となり、査読者のレベルをあげることにつながると思います。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。これまでもいただいた要望ですが、現在の投稿システムでは残念ながらその機能に対応できません。

36 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス4) 査読システムで，査読受諾前に合計ページ数が確認できるようにしていただきたいです。（作業分量の判断ができるので

- A. 貴重なご意見をありがとうございました。現在の査読システムの軽微な改編で対応可能かを学会事務局に確認いたしましたが、困難とのことでした。暫定的対応としては、担当幹事に査読者からご照会いただくことをお願いできれば、編修長としてありがたいと考えております。

37 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス5) 論文誌への掲載論文の題名，所属，氏名＋概要（数行）のメール（既に題名，所属，氏名は配信されていますが）で連絡いただくとアクセスしやすいです。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。残念ですが現在の査読システムの軽微な改編で対応可能ではないとのことです。

次期論文投稿（査読）システムにそのような機能を入れるべく要望を申し伝えます。

38 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(シス6) 査読対象論文の参考文献へのアクセス方法を検討して頂きたい。最良の方法は、著者から提供を受けて、ネット上に画像で表示してもらえれば、著作権も問題とならないのでは無いでしょうか。せめて、電気学会の論文・研究会資料へはアクセスできるようにして欲しいです。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。

査読に必要な論文は事務局経由で著者に照会して取り寄せることが可能です。

39 【ご意見】 査読について（共通・システム）

<和文誌査読(共通事項、システムへの要望を含む)>

(7) 稀に、技術はよくとも文章の質が悪いものがあるが、そういう投稿を抑制できないか。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。論文委員会が、論文指導はできないので、これは主として著者側の問題になります。査読委員としては、「産業応用部門誌論文査読マニュアル」の3章の「論文が備えるべき要件」に記載の通り、「論旨が明瞭か。」、「論文の完成度は掲載可能な水準に達しているか。」の項目で、判定していただきますようお願いいたします。

(1) 英文論文の査読に関して、英語表現の問題をどの程度指摘して良いか迷います。論文の英語表現に問題があることが分かっていても、査読者が適切な修正案を必ず提示できるわけではありません。また、英語表現に問題がある論文は、問題がある箇所が膨大であることが多く、査読者がそれらを全て指摘するのは負担が大きいです。査読の前にネイティブチェック等の機会があると望ましいと思います。

A. 貴重なご意見をありがとうございました。英文のレベルが低い・問題が多い場合は、個々の表現を指摘せず、ネイティブチェックをかけるように、コメントしていただくことでお願いしたいと思います。それを理由として、D判定としていただいて構いません。

投稿時に、ネイティブチェックの証明書を添付している論文もあります。

(2) 英文論文誌の論文テンプレートファイルとの互換性の高い「国際会議用論文テンプレートファイル」を作り、IEEJが著作権を有するときの国際会議（ICEMS、IPEC、LDIA、SAMCONなど、細部は会議毎に変更可）で共通に使えたら、国際会議→JIAへの投稿を進めやすいと思いました。併せて、英文論文誌の論文テンプレートファイルも少し見直してはいかがでしょうか。

- a) 数式番号は(1)、文献番号は[1]に分ける（視覚的に見やすいので）
- b) テンプレート内の本文は、書式の説明や好ましい書き方といった意味ある内容を書く
- c) 和文フォントの使用を避ける

A. 貴重なご意見をありがとうございました。共通英文誌のフォーマットでもあるので、調整が必要です。各国際会議の論文委員会と情報共有するようにしていきます。

(3) 共通英文誌とD部門英文誌の2つありますが、D部門英文誌の方に誘導することはできないでしょうか。査読が回ってきてても、正直なところ共通英文誌の査読はモチベーションが上がらないです。

- A. どちらに投稿するかは、著者の自由ですが、D部門分野の論文においては、事務局の方で、日本人投稿者にはJIAの方への投稿を打診しています。
ただし共通英文論文はIFを持っていますので、どうしても海外からの論文は共通英文誌に投稿される比率が高いです。英文論文誌の戦略委員会でも、海外著者の比率を高める施策を進めている状況です。

43 【その他】 査読結果の査読者間での共有について

査読結果をその論文の査読を担当した査読者間で、共有することの是非について

- A. 査読結果の共有について、部門論文委員会内で調査を行い、希望者が多ければ、部門として編修会議等に提案したいと思います。

和文論文誌・英文論文誌ともに
魅力のある論文誌となりますよう
編修長・主査・副主査・幹事一同努めてまいります
論文委員の皆様方も引き続きご協力をお願いします。

これにて意見交換会を終了します

ありがとうございました